

令和6・7年度 熊本県教育委員会指定「熊本の学び」プロジェクト校
令和7年度 熊本県教育委員会「くまもとGIGAスクールプロジェクト」指定校

研究主題

主体的に他者と協働し、学ぶ楽しさを実感できる生徒の育成
～安心と信頼にあふれ、高め合う集団づくりを通して～



御挨拶

校長 大谷 浩介

本日は公私ともに御多用なところ、御来校いただき誠にありがとうございます。本校では令和6・7年度「熊本の学び」プロジェクト校及び令和7年度「くまもとGIGAスクールプロジェクト」の指定を受け、関係の皆様のお指導のもと研究実践を重ねて参りました。そこで本日はその一端を公開し、御参会いただいた皆様から御指導と御助言を賜り、さらなる研究の充実・深化を図るとともに、微力ながら地域の教育振興のためにお役に立てればと考えております。限られたお時間ではございますが、どうか忌憚のない御意見をお寄せください。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和7年12月19日

南阿蘇村立南阿蘇中学校

学力部会

生徒が「学びの主体」となる（子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める）授業づくりに取り組む。



取組1

南阿蘇中スタイルの授業実践

授業者と生徒が見通しを共有して学習ができるよう、全ての教科で「みなあそ学習」を実践している。

「振り返り」の視点を明確にすることで学びの定着と深化を図るとともに自己の成長への気付きや次の学習への見通しを持つ等、生徒のメタ認知力の向上を目指す。

みなあそ学習 (課題解決)

み みんなで確認 (めあて・課題)

な 悩んで見つける (個人思考)

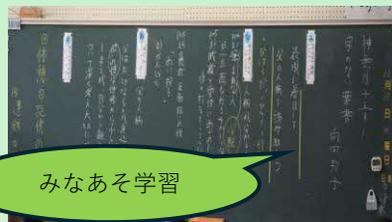
あ “あい”の話し合い・学び合い・深め合い (協働学習)

そ そういふことか!! (まとめ・振り返り)

主体的・協働的に授業を楽しもう!!

「振り返り」の視点

- ① “いいな”と思った友達の考え
- ② 納得できなかったこと
- ③ 何ができるようになったか
- ④ なぜできなかったのか
- ⑤ 考えがどのように変わったか
- ⑥ “新たな問い”や“課題” (どのように解決したいか)
- ⑦ “学んだこと”や“気付き” (生活や次の学習にどう生かすか)
- ⑧ 家庭学習で何を調べてみたいか
- ⑨ その他 各教科の視点



みなあそ学習



ICTを活用した振り返り

取組2

効果的な話し合い活動の工夫

話し合いの「ゴール」が分かっているため、生徒は自分が何を考え、どのように貢献すべきかを理解しやすくなる。

「何のために話すのか」を明らかにすることで、積極的かつ主体的に議論に参加する姿勢が生まれることを目指す。

あ 協働学習の視点と活動目的

視点	伝え合い	話し合い	深め合い
	○自分の意見や考えを友達に伝える。	○自分の考えと友達の考えを比較して、見を、より良い意見からなることは質にまとめる。	○話し合いで出た意
活動の目的	○友達の意見や考えをしっかりと聞いて受け止める。	○みんなの意見を整理する。	○話し合いをもとに、自分の考えの模範を明確にする。
	知る	整理する	練り上げる



俳句に入れる言葉はどれがいいかな

取組3

夢タイムの実施（基礎基本の定着）

10分という明確なタイムミットがあるため、「これだけは終わらせよう」という意識が働き、集中力を高め学習に取り組むことができる。

基礎・基本の学習を行うことで授業への理解度が高まり、その後の学習成果の底上げを目指す。

夢タイム計画表

曜日	月	火	水	木	金
内容	読書 図書室で本を借りておく	国語 漢字・文法 タブレット学習	数学 計算・文章問題 タブレット学習	英語 単語・文法 タブレット学習	プランニング 翌週の学習計画を立て、覚悟をもつ

確認事項

- 8時15分～25分（10分間）
- 筆記用具・タブレットを準備
- 基礎基本の定着のため、集中して取り組む
- プランニングを基に家庭学習に取り組む



金曜日には次の週の学習計画をプランニング

タブレットドリルの活用

取組4

授業づくり支援事業の活用（授業力向上）



授業観察の様子



指導・助言の様子

教員の授業力向上と指導方法の改善を目的として、教育政策課の指導主事を講師として招聘した校内研修や、阿蘇教育事務所による授業づくり支援事業の全教科での活用を実施している。

きずな部会

昨年度の研究より、協働的な学びを充実させるためには生徒が安心して過ごせるよう、支持的風土の醸成が必要であることが明らかになった。
そこで、自他理解を高め、生徒が安心して自分の意見や考えを発信できる環境作りに取り組む。

取組1

きずなタイムの実践

構成的グループエンカウンター（SGE）

集団学習体験を通じて自己理解や他者理解を深め、行動の変容と人間的な成長を促す手法。今年度、諸活動の時間に年7回実施。



= 年間計画 =

回	時期	内容	目的
第1回	6月	〇〇が好きな●●です	自己理解、伝えることに慣れる
第2回	7月	アドジャン①	自己理解、他者理解（簡単なもの）
第3回	9月	二者択一	自己理解、他者理解
第4回	10月	すごろくトーク	思いや体験を語る、相互理解の深まり
第5回	11月	アドジャン②	自己理解、他者理解（①より内容を深める）
第6回	12月	大切なものランキング	多様な価値観の理解
第7回	1月	私の好きなクラス	思い出を確かめ合い絆を深める



グミが好きな●●です。よろしくお願いします。

私も好きだよ！

第1回「〇〇が好きな●●です」

優しいね。

テーマは「宝くじが当たったら何をしたいか？」みんな、何をしたい？

半分使ったら残りはおうちの人にあげようかな。



第2回「アドジャン①」

麺を食べるならラーメンとうどんどっちがいい？

どっちかと言えばうどんかな。

この班はうどんの人が多いね。

第3回「二者択一」

きずなタイム②の感想をデータ入力し、AIによる分析を行いました

1. 人間関係の深化・絆の形成

- ・友達や班のメンバーの「知らなかった一面」を知ることができた。
- ・共通点や意外な違いを発見し、親近感や興味が高まった。
- ・普段あまり話さない人とも会話でき、距離が縮まった。
- ・「またやりたい」「次は違う班でもやりたい」という声が多く、関係性の広がりや望む姿勢が見られた。

2. コミュニケーション力の向上

- ・お題を通して自然に会話が生まれ、話すことへの抵抗が減った。
- ・自分の考えを伝える経験ができ、相手の話を聞く姿勢も育まれた。
- ・テンポよく進むことで、会話のキャッチボールが活発になった。

3. 自己理解・他者理解の促進

- ・自分では思いつかないような考えに触れ、新しい視点を得た。
- ・他者の価値観や考え方をすることで、理解や共感が深まった。
- ・「自分もそうするかも」「確かに！」など、他者の意見に影響を受ける場面が多く見られた。

4. 活動への高い満足度と意欲

- ・「楽しかった」「面白かった」という感想が圧倒的多数。
- ・笑いが生まれたり、盛り上がりたりする場面が多く、ポジティブな雰囲気が醸成された。
- ・「もっとやりたい」「他のクラスでもやりたい」など、継続的な実施への期待が高い。

取組2

人権教育の充実



外部講師と連携した人権の授業づくり

☆ 専門的な知識の導入 ☆

外部講師は人権に関する専門的な知識や経験を持っており、教師だけでは伝えきれない深い視点を授業に加えることができた。

☆ 授業づくりの支援 ☆

外部講師との協働により、授業内容や進め方の工夫が生まれ、より効果的な教育が可能になった。

☆ 校内研修の充実 ☆

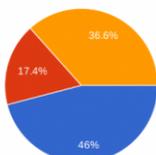
人権教育に関する校内研修を充実させることにより、教員の人権意識を向上させ学校全体が多様性を認め合う文化を育み、安心して学べる環境づくりを目指す。



校内人権集会

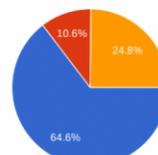
あなたが悩んだとき、先生に相談できますか

161件の回答



あなたが悩んだとき、友達に相談できますか

161件の回答



人権ボランティア委員会によるアンケートの実施

キャリア部会

学校が地域や家庭と連携し、特色ある教育活動を行い、コミュニケーション力を高め、生きる力の育成に取り組む。



取組1

五者連携の充実

1年生 起業体験プログラム



1年生 農業体験



南阿蘇の魅力を知る・伝える



2年生 職場体験



地域の産業を学ぶ



地域の方々とのふれあい



3年生 福祉体験



地域の福祉を学ぶ

子ども議会



3年生 総合的な学習の時間



子ども食堂

取組2

総合的な学習の時間、特別活動を中心としたカリキュラム・マネジメント

3年生「子ども議会に向けて」

教科等と総合的な学習の関連について作成した事例集から

教科：国語

- ・聞き上手になろう
- ・相手や場に応じた言葉遣い
- ・話し合いを効果的に進めよう
- ・合意形成に向けて話し合おう
- ・説得力のある構成を考えよう

総合的な学習の時間との関連

- ・プレゼンテーション資料の作成
- ・ディスカッション
- ・取材活動



学年ごとに教科等と総合的な学習の時間との関連を見直し



- ・他地域の取組を例に、あつまり〜ん祭の参考になる情報を収集できた。あつまり〜ん祭の準備や運営に向けて質問を考えることができた。より説得力のあるプレゼンのために、アンケートを作成した。
- ・今村会長にたくさん質問して、あつまり〜ん祭が始まった経緯や展望、イベントを開催するうえで大切にしていることなどが分かった。積極的に質問したり、提案したり、自分のできごとにより自主的に取り組めた。



総合的な学習の時間、特別活動を中心に据え、他教科等との関連を明らかにした。教科等横断的な学びを推進するためには教員・生徒ともに「つながりを意識した学びの設計と実践」が重要である。各教科等の内容や活動と総合的な学習の時間や特別活動が具体的にどのように関連付けられるか、校内研修の時間に検討する機会を設け、事例集を作成した。どの教科等がどの部分を担うかを明確にし、全体像を共有することで、学習活動がスムーズに進むことを目的とした。

研究構想図

学校教育目標

夢が湧き、夢を叶えることに
夢中になれる生徒の育成

育成を目指す資質・能力

「協働する力」 「考えを持ち発信する力」 「積極的に挑戦する力」

研究主題

主体的に他者と協働し、学ぶ楽しさを実感できる生徒の育成
～安心と信頼にあふれ、高め合う集団づくりを通して～

学力部会

- ・南阿蘇中スタイルの授業実践
- ・単元を通したゴールの提示
- ・夢タイムの実施、マイプランニング指導
- ・授業と家庭学習をつなぐ指導の工夫

キャリア部会

- ・起業体験学習の実施
- ・コミュニティ・スクールの推進
- ・地域・家庭との連携
- ・南阿蘇村議会との連携（子ども議会）
- ・総合的な学習の時間、特別活動を中心とするカリキュラム・マネジメント

きずな部会

- ・生徒の実態把握
- ・月1回のきずなタイムの実施
- ・教育相談
- ・生徒の実態に応じた人権教育の実施
- ・出会いを大切にした授業づくり

GIGAスクール構想
一人一台タブレット端末

地域・家庭との連携
地域イベントとの連携
村商工会
地域おこし協力隊
地域創生アドバイザー

義務教育課・教育事務所による
授業づくり支援事業等
南阿蘇村指導員訪問
郡市・村人権同和教育部会

昨年度の取組

令和6年度研究テーマ

自ら学び、他者と協働する生徒の育成

～すべての生徒が「分かる喜び」を実感し、自分の言葉で学びを語り合う集団づくりを通して～

= 各部会の取組 =

【授業力向上部会】

- 南阿蘇中授業スタイルの構築
- 個々の授業力向上プラン
- 校内研修の見直し
- 振り返りの充実

【カリキュラム・マネジメント、調査部会】

- 各種調査
- ルーブリックの作成・活用
- カリキュラム・マネジメントの充実

【対話・協働部会】

- 対話に関するアンケートの実施
- 話し合いのルールづくり
- ⇒何のために話し合うのかを明確にする。

= 授業実践 = ～主体的・対話的で深い学びに向かうための「みなあそ学習」の授業展開の推進～
《第2学年 社会科「近畿地方」》

【本時の目標】

近畿地方の学習を振り返り、過疎に対する地域づくりの取組を考察し、持続可能な南阿蘇村にするための最適な事例を発信することができる。

主な学習活動と授業の様子

主体的・協働的で創造的な学びに向かうための具体的な手立て

1(み)

【学習課題】持続可能な南阿蘇村にするために、南阿蘇村に活かすことのできる近畿地方の地域はどこだろうか。

【めあて】近畿地方の学習を振り返り、持続可能な南阿蘇村にするための事例を発信しよう。

主体的な学びへの手立て(課題解決に向けて)

○単元のゴールを確認し、本時の学習に具体的な見通しをもたせる。

2(な)

①「持続可能な近畿地方」を基に発信しようと考えている候補地とその理由を共有ノートで確認する。(個人思考)

学習リーダーによる進行



主体的な学びへの手立て(見方・考え方を働かせる)

○自分が課題として選択している内容に関係する資料の見方や調べる際のポイントを明確に示し、「社会的な見方や考え方」を身に付けることができるようにする。

3(あ)

(1) 深めるための【伝える】

異なる内容について調べた生徒と、共通点や重要だと感じた事柄を明確にするために協議検討する。

(2) 個人再構築する。



私は～村の取組が参考になると思います。理由は～だからです。僕は、～町の取り組みが南阿蘇村に合っているといます。理由は～だからです。

主体的な学びへの手立て(粘り強く取り組むための関わり)

○複数の資料から主体的に課題解決を図ることができるようタブレット端末(共有ノート)を効果的に活用する。また、考えを整理したり関連付けたりできるようにする。

対話的な学びへの手立て(協働学習①)

○友達の発表を聞くことで新たな学びとしたり、自分の調べたことと比較することで事象のもつ意味について考えたりすることができるようにする。

創造的な学びへの手立て(発問の工夫)

○生徒の思考を揺さぶる発問を提示することで、本時まで学習したことを踏まえながら、自分なりの考えをもつことができ、創造的な学びにつなげる。

対話的な学びへの手立て(協働学習②)

○意見交流により、南阿蘇村に活かせる取組を、実感を伴ったものにさせる。生徒なりに、学習したことを踏まえながら、社会の一員として自分事として見つめることができるようにする。

評価:

- 考察したことを踏まえ、候補地について理由を明確にして、発信しようとしている。

4(そ) 本時を振り返る

【振り返り】近畿地方の学習を振り返り、複数の資料や願い等を関連付けながら考え、根拠を持ち発信していくことが大切。

ゲストティーチャーに来ていただき、南阿蘇村のことについて生徒の思考を揺さぶる話をしていた。



(3) 多面的に考えを広げるための協働学習【広げる】

村長の考え(願い)を聞いて、自分の考えを練り上げる。クラス全体に発信する。

同じシートに考え加筆修正



僕は、副村長さんの話を聞いて、自分の考えに付け加えて、南阿蘇村が農業に力を入れているので、作った野菜を農業イベントや体験会があるときに実際に食べてもらい、参加者の方にSNS等で発信してもらおうと思いました。